

## 令和4年度 第2回静岡市中小企業・小規模企業応援会議 議事録

開催日時	令和5年3月6日（月） 10：30 ～ 12：00
開催場所	各委員の属する団体等の事務所等 ※ウェブ会議のため
出席委員 ※五十音順	青山達弘 座長、高橋節郎 委員、竹内佑騎 副座長、手塚光里 委員、中野真吾 委員、仁科満寿雄 委員、松下恵美子 委員、八木邦明 委員、矢部田久幸 委員、山崎かおり 委員（10名）
欠席委員 ※五十音順	稲葉豊穂 委員、大谷裕紀 委員、佐藤由貴 委員、深田浩介 委員、堀田純友 委員（5名）
静岡市出席者 （事務局）	桐野産業政策課長、鈴木課長補佐兼企画係長、田中主査
<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会に当たって、以下2点について報告と確認を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①委員の出欠席状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の過半数が出席していることを報告した。</li> </ul> </li> <li>②議事録の作成について <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録を作成し、市ホームページで公開することを委員から了承を得た。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>2 青山座長 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響により、今年度もリアルでの会議開催が叶わなかったため、次回以降はリアルで開催したい。</li> <li>・事務局から説明をいただいた後に、フリーに意見を話していただきたい。忌憚なき意見をお願いしたい。</li> <li>・副座長から何かあれば御挨拶をお願いしたい。</li> </ul> <p>3 竹内副座長 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応援会議の元々のコンセプトである「和気あいあい・未来志向」で、リスタートしていければ良いと思う。</li> </ul> <p>4 議事</p> <p>（1）静岡市産業振興プラン策定に向けた意見聴取について</p> <p>【事務局】資料1～3、参考資料1を用いて説明</p> <p>【説明内容】</p> <p>○産業振興プラン策定に関する意見聴取状況の説明：参考資料1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の応援会議の後、「産業活性化懇話会」を開催し、意見を聴取し、案を取りまとめた。次期計画の目指す将来像及び基本方針にいただいた意見は反映している。</li> <li>・令和5年1月に、市の「重要政策検討会議」に諮り、2月にかけて「パブリックコメント」を行った。</li> <li>・今後は、「産業活性化懇話会」の意見を伺った後に、3月末に市の「経営会議」に計画案を諮る。本日は、計画案、パブリックコメントの結果及び対応について意見をいただきたいと考えている。</li> </ul>	

- ・また、それらを踏まえた応援会議の今後の取り組み（共創支援ネットワークの構築に際しての関わり方など）について、意見をいただきたいと考えている。

○産業振興プラン案についての説明：資料 1

- ・現計画の成果、評価及び社会環境・有識者意見・関連計画の整理
- ・次期計画策定に向けた課題感
- ・次期計画の目指す姿・目標・基本的な考え方
- ・次期計画の体系

○パブリックコメント結果概要の説明：資料 2

- ・パブリックコメントの実施概要、回答者の属性の説明、40 人・147 件の意見が提出された。
- ・本計画案については、おおむね賛同を得られたという認識  
（「共感できる」10 件：25.0%、「まあまあ共感できる」28 件：70.0%）
- ・地域づくりに関する意見が最も多く寄せられた。まちの賑わいづくりやそのための魅力づくりに関して意見が多く寄せられた。
- ・共創によるイノベーション創出や人材育成に関しても関心が高かった。  
行政に各企業の取り組みの下支えを期待する声が多い。

○パブリックコメント意見一覧及び対応の説明：資料 3

- ・いただいた 147 件の意見を一覧表にしたもの（詳細な説明は割愛）
- ・そのうち 10 件について意見の反映を行う予定（10 件のうち 9 件は、市の事業の PR に関するものであり、実際の対応は 2 つの意見について行う。）

○質疑・意見交換等

【青山座長】

委員の方から事務局の説明に対する意見や最近の動向等について御発言をお願いします。

【山崎委員】

中小企業を取り巻く環境は、依然として厳しいです。産業振興プランにも、中小企業の意見をなるべく盛り込んでいただければと思います。

【手塚委員】

私達の業界の話で申し上げますと、まだまだ半導体不足による製品の供給不足が続いております。現状、中小企業は原材料の高騰、エネルギー高騰に苦しんでおり、足元では下請事業者の現状を踏まえ、適正取引の動きも出てきております。賃金上昇等、企業側も能動的に動かなければならない状況になりつつあります。

【八木委員】

社団法人のプロジェクトが静岡以外の自治体でも行えるようになってきており、その中で静岡を外から見ると、静岡愛に溢れ、未来のことを考えている人・企業が多いと感じました。

また、業種や会社数、先進的な取り組みを行っている企業も多彩で、改めて静岡は「ものづくり王国」であると実感しました。

【竹内副座長】

観光業界としては、コロナが明けつつあり、コロナ禍以前の状況に戻ってきております。清

水港への客船寄港等、環境が良い方向に変化しています。

産業振興プランの中で、説明がありましたが、今は「量から質」への転換が迫られております。例えば、コロナ禍以前の京都ではオーバーツーリズムの状態に陥りました。産業全体で人手不足の中で、全ての業界が質へのフォーカスが求められております。適正なところでどう収めていくかという観点が必要です。そうした意味で次期計画の目標は良いものだと考えております。

【松下委員】

同友会の活動で景況調査を行っておりますが、原材料など何もかも上昇しており、それに伴い売り上げは伸びているが利益は下がっている「利益なき繁忙状態」となっており、人材不足も進んでいるようです。

本応援会議の場を通じて、具体的な施策検討に関わりたいと考えております。

【中野委員】

企業支援の立場で申し上げますと、コロナや物価高騰・原材料やエネルギー高騰への対応や企業の競争力の確保・人材育成等、産業振興プラン案で示されているものと課題感は同じです。パブリックコメントの結果を見ても同様のことが言えるのではないかと思います。

【矢部田委員】

清水地区（由比・蒲原・興津）にも地域資源が多くあるので、産業振興プランによる取り組みに入れてもらえればと思います。

【仁科委員】

説明を聞いて感じたのは、市民・関係者の連携した取り組みが必要であるということです。

先日、民放の旅番組で「静岡市に初めて降りたが、何もなかった。」と出演者が話していたのを観まして、思いを強くいたしました。

私は普段、協同組合の活動の中で、光の当たらない企業の方と接しております。きちんと働き、納税している「普通の市民」のことを考えた計画案になれば良いと思いました。

【高橋委員】

オンライン会議だと、各委員が意見を言いつぱなしになってしまうので、次回以降は対面で開催できたら良いと思いました。

私は2つの支援機関のセンター長という立場で、各支援施策を練っておりますが、産業振興プラン案は参考となっております。幅広くまとまっていると感じました。

（２）今後の取り組みについて

【青山座長】

それでは、議題（２）「今後の取り組みについて」に移ります。

応援会議の今後の取り組みについて、各委員から御意見をいただきたいと思います。

御意見のある方から御発言をお願いします。

【山崎委員】

先日、高校生のSDGsアイデアコンテストの審査員を務めました。高校生や大学生の世代が、SDGsについては良く勉強していて、良く知っている世代です。

こうしたことから、産業振興プラン案に限らず、若い人達のアイデアを募る仕組みがあったら良いと思いました。

また、産業振興プランの他に「ものづくり産業振興計画」という計画があり、その中に記載

のある「オープンファクトリー」の取り組みに関わらせていただいております。単純な旅行のみならず、「地域のコトを見たい」、「そこで働いている人の話を聞きたい」といった声を多くいただいております。

【八木委員】

これまでは、ヒト・モノ・カネ・コトといった「見えるもの」に注力していたと思いますが、これからは「見えないもの・価値」に注力していく必要があると感じます。

私達の取り組みの中でも、例えば企業と学生が話をする場を設定すると、企業の方は現在の自社製品等の説明をしがちですが、学生にとって、それはもう「過去のこと」でしかありません。そうではなく、働く人の話や生活ぶりにフォーカスしていく必要があるのではないかと感じました。

また、様々な所でビジネスコンテストが開催されておりますが、どこに焦点を当てるかが重要です。学校の活動の中でもよくありますが、提案しても実現に至らず、課題感だけが若者に残ってしまうということになりがちです。

【青山座長】

地域の課題を見るだけではなく、誰が解決するのかという視点が重要だと思います。

【竹内副座長】

目に見えないものの価値の話ですが、観光については消費ではなく関係づくりにシフトするということだと思います。コロナにより、地方でのワーケーション等は浸透してきておりますが、今後は観光の中に人と繋がる機会をどう入れていくのかということだと思います。

「地域の産業を見に行こう」、「夜の商店街に行ってみよう」等、外から来た人を静岡で関わってもらおうとするキッカケづくりが重要だと思います。

【松下委員】

同友会の「お宝発見部会」では、ガイアフローや三保サーモンの見学をさせていただきました。産業振興プランの中で、本応援会議がどう関わっていくか、部会を作って検討していきたいと考えています。

D X等は、人材確保の面でも大切になってきています。特に、若い人材を確保するという面でもD X化は欠かせないと思います。

【青山座長】

市の方で何かありますか。

【桐野課長】

オープンファクトリーの話がありましたが、令和5年度の事業開始を予定しております。

また、オンライン開催と思えないような、多くの意見をいただき、ありがとうございます。

引き続きよろしくお願いいたします。

【中野委員】

少し話の切り口を変えてしまいましたが、産業振興プラン案には、具体的な企業との接点となり得るものの記載があります。例えば、静岡市は数少ない脱炭素先行地域であり、またSDGsの普及にも積極的です。D XやG Xも含めて、地域企業も対応せざるを得ない状況になってきています。こうした新たな価値観への対応が各企業の魅力・競争力の向上に繋がる好循環をともに実現していけたらと思います。

【矢部田委員】

観光に関する話がありましたが、コロナ前の外国人観光客は戻ってきておりません。

観光に対して、産業との交流を促していくような取り組みをお願いしたいです。

【仁科委員】

産業振興プラン案については、これで良いと思いますが、後は誰がやるのかです。

新しい事業ばかりに目が向きがちですが、現在の事業のスクラップも必要だと思います。

また、皆様に周知したいことがありまして、中小企業庁によると、市内 99.7%の会社が中小企業で、就業者ベースでは 70%が中小企業の就業者ということでしたので共有いたします。

【高橋委員】

私自身がプレイヤーの立場でありまして、そうした観点からの意見ですが、産業振興プラン案に出てくる言葉に難しいものがあるように感じました。

「共創」という言葉ひとつ取っても、共通理解を読んだ人ができるのか疑問に思いました。

また、今までは創業支援に力を入れてきました。引き続き創業支援は行うとして、新たにスタートアップの支援をやり切れるのかという感想も持ちました。

産業振興プラン案全体としては、重要な事項が良く整理されていると思います。他の委員もおっしゃっていましたが、後は実行面です。

【青山座長】

実行面の話で、本応援会議で部会等を作って、施策検討していきたいですね、オープンファクトリー、お宝発見、見えないもの等、キーワードが出てきたと思います。

【山崎委員】

パブリックコメントの意見を見て、自営業者の方の意見が少ないと感じました。これからの取り組みの際には工夫が必要であると思います。

【青山座長】

本応援会議の重要なテーマ「知る・知らせる」の観点の取り組みが重要だと思います。

では、竹内副座長にまとめをお願いします。

【竹内副座長】

産業振興プラン案に限らず、産業を誰が作っていくのかを考えると、それはやはり事業者自身であると思います。そうした意味で、本応援会議も部会等を立ち上げて、具体的な施策を検討し、市に提案できるレベルまで持っていく取り組みは今後していきたいと思いました。専門家や若者、外部人材にもメンバーに入ってもらったり、意見をいただけたら面白いのではないかと感じました。

【青山座長】

ありがとうございました。皆様からの意見につきましては、事務局にてまとめていただきまして、後日確認をいただきたいと思います。

5 今後の手続き等について：事務局より説明

- ・産業振興プラン案は、「産業活性化懇話会」に諮った後に、市の「経営会議」に諮り、正式に承認される予定で、応援会議の皆様には、今後も御協力をいただきたい。
- ・来年度の会議につきましては、青山会長と相談のうえ、設定させていただきたい。
- ・事務局で本日の議事録を作成するので、確認への御協力をお願いしたい。

6 閉会